

平成30年度 学校評価状況の分析・改善 (7月・12月実施) 白山市立鳥越中学校

※ 評価の観点による実現状況の達成度判定基準は、A～Dの4段階の基準で評価したものである。  
 [A…よくあてはまる、B…あてはまる、C…あてはまらない、D…まったくあてはまらない]

※ 判定は、学期の業務遂行状況を教職員による学校評価アンケートや生徒・保護者アンケートの結果をA～Dの4段階の判定基準で評価したものである。また、その分析や改善結果・学校関係者評価について記載した。

「よくあてはまる」で評価  
 ( )内は「よくあてはまる」「あてはまる」合わせたポイント

A…とても良好  
 B…良好(目標)  
 C…検討が必要  
 D…再検討・改善

重点	経営ビジョン	具体的な取組 (重点目標)	項	評価の観点【成果指標】	基準	7月	12月	結果分析・改善	学校関係者評価	次年度に向けて
1 学校経営の充実	学校評価を生かした学校経営の充実	<b>【1. 教育目標・めざす生徒像】</b> (豊かな心と向上心にあふれる生徒の育成) ○4つの生徒像の実現 ・自ら進んで学習する生徒 ・互いの良さを認め高め合う生徒 ・心と体を鍛える生徒 ・ふるさとに誇りを持つ生徒  <b>【2. 具体的な取組 (Plan)】</b> ○4つの生徒像の実現に向けて各分掌で取り組む ・確かな学力の育成 ・共感的な生徒指導 ・主任の機能化	① 生徒	学校へ行くのが楽しい。	A-90% B-80% C-70%	88% B	86% B	○7月評価 (Check) <b>【評価・分析】</b> 「学校に行くのが楽しい」という項目では生徒、保護者、教職員いずれの回答においても概ね満足できる結果となっている。一方、「あてはまらない」「まったくあてはまらない」という回答が、生徒は12%で、人数に換算すると8人である。この生徒たちがどのような場面で「楽しくない」と感じているのか観察していく必要がある。「困ったときに相談できる(できそうな)先生がいる」という生徒の項目においては72%となり、目標としていた80%に到達していない。しかしそれ以上に「あてはまらない」「まったくあてはまらない」が合わせて28%いるということを重ねて受けている。  <b>【7月評価時点での成果と課題】</b> 生徒一人一人を日頃からよく観察し、長所や努力しているところを見取ったり、悩みについて声をかけたりするなど、いざというときに相談できる関係を教師自身が作っていくことが大切である。また、生徒の情報を共通理解し、どの教職員も相談に関わることができる場の設定や相談体制の見直しを図ることが考えられる。保護者に対しては、今後も学校の方針、取組等を通信を通して発信するとともに、保護者の声に耳を傾ける等、家庭との連携を進めていくことが必要である。  <b>○目標・計画の再設定 (Action)</b> 教師の「生徒が困ったときに相談できるような声かけをしている」の数値と生徒の「困ったときに相談できる(できそうな)先生がいる」の数値がともに高くなっている。教師の心がけ一つで生徒の意識が変わることが見て取れる。普段から生徒の様子をよく観察し、声かけをしたり、生徒からの話には丁寧に対応したりする。	(前期) 「困ったときに相談できる先生がいる」の評価がCとなっているが、「あてはまらない」と回答している生徒は自分のことを理解してほしいというサインを出していると解釈することもできる。思春期の中学生が「困ったときに相談できる先生がいる」という項目で「あてはまる」72%は低い数値とは思われない。教師以外に親や友人など相談できる人がいれば良い。	<b>【評価を終えて】</b> 「学校に行くのが楽しい」という項目で肯定的な回答は7月に比べほぼ変わらないが、内訳を見ると「よくあてはまる」と答えている生徒が6%増加している。また、「あてはまらない」と答えている生徒は減少している。同様に「困ったときに相談できる先生がいる」の項目においても「よくあてはまる」が6%増加し「あてはまらない」は15%減少している。学校生活が進むにつれて「楽しい」と感じ教師への信頼が高まっていることは喜ばしいことである。 今後も普段から生徒の様子をよく観察し、声かけをしたり、生徒からの話には丁寧に対応したりするよう全教職員で取り組んでいきたい。  <b>【求める生徒の姿】</b> ・自己有用感を感じ、充実した学校生活を送る生徒  <b>【具体的な取組】</b> ・「4つの生徒像」の実現に向けて生徒の現状に応じた計画的・具体的な取組、組織としての実践 ・教職員が共通認識・共通行動するための情報共有の場として、主任会議・職員会議の充実 ・「開かれた学校」を目指し、保護者・地域への生徒の様子や学校方針の発信
			② 保護者	子どもは、学校へ行くのが楽しそうである。	A-90% B-80% C-70%	85% B	85% B			
			1 教師	生徒は、学校に来るのが楽しそうである。	A-90% B-80% C-70%	100% A	100% A			
			② 生徒	困ったときに相談できる(できそうな)先生がいる。	A-90% B-80% C-70%	72% C	87% B			
			② 保護者	親が困ったときに相談できる(できそうな)先生がいる。	A-90% B-80% C-70%	83% B	86% B			
			2 教師	生徒が困ったときに相談できるような声かけなどを行っている。	A-90% B-80% C-70%	86% B	100% A			
			③ 生徒	先生はよく見てくれたり声をかけたりしてくれる。	A-90% B-80% C-70%	87% B	92% A			
			② 保護者	教職員は子どものことをよく見て声をかけたりしていると思う。	A-90% B-80% C-70%	90% A	81% B			
4 教師	いじめの防止に積極的に取り組んでいる。	A-90% B-80% C-70%	100% A	100% A						
6 教師	主任を中心に組織的に学校が動いている。	A-90% B-80% C-70%	100% A	100% A						
2 確かな学力の形成	自ら進んで学習する生徒の育成 「知」	<b>【1. 達成された姿(ゴール)】</b> ・授業で学習内容の見通しを持ったり、ふり返ったりすることができる生徒 ・授業に意欲的に取り組んでいる生徒  <b>【2. 具体的な取組 (Plan)】</b> ・見直し・ふり返る学習活動の研究 ・校内研究授業の充実	⑥ 生徒	授業で学習内容の見通しを持ったり、ふり返ったりすることができる。	A-60% B-50% C-40%	51(90) B	44(93) C	○7月評価 (Check) <b>【評価・分析】</b> 「見直し・ふり返り」の項目では、「よくあてはまる」と答えた生徒が51%に達した。「意欲的な取り組み」の項目では、97%の生徒が「あてはまる・よくあてはまる」と答えたが、「よくあてはまる」と答えた生徒は39%にとどまった。自信を持って意欲的に取り組んでいると言える生徒が少ない。  <b>【7月評価時点での成果と課題】</b> 各教科において単元見直し表を活用した、見直し・ふり返りのある授業に取り組んだ成果と言える。しかしまだ10%の生徒は、見直しを持つことができていない。学習意欲にもつながるよう、生徒一人一人の「わかった」を大切に授業づくりをしていく必要がある。  <b>○目標・計画の再設定 (Action)</b> 「見直し・ふり返り」の項目では、「よくあてはまる」は減少したが、「あてはまる」を含めると数値は上がっている。また「意欲的な取り組み」の項目では、半数の生徒が「よくあてはまる」と答えている。今後も、見直し・ふり返りのある授業を全教科で揃えて行っていく。	(前期) 小学校と傾向が似ているように感じられる。子ども達が「自分は頑張っている」と自信を持って言えるように自己肯定感を高められる声かけなどをしていくことが大切である。それが思考力・表現力・判断力の基礎となり、学習への意欲につながるのではないかと。	
			9 教師	生徒が学習内容の見通しを持ったり、ふり返ったりすることができるよう取り組んでいる。	A-90% B-85% C-80%	86% B	100% A			
			⑦ 生徒	授業に意欲的に取り組んでいる。	A-40% B-35% C-30%	39(97) B	50(97) A			
			7 教師	分かりやすい授業を工夫している。	A-90% B-85% C-80%	100% A	100% A			
								(後期) 今後も生徒の主体性を促すような見直し・ふり返りのある授業を継続できるように、授業の展開など工夫を重ねていってほしい。	<b>【求める生徒の姿】</b> ・授業で学習内容の見通しを持ったり、ふり返ったりすることができる生徒 ・授業に意欲的に取り組んでいる生徒  <b>【具体的な取組】</b> ・見直し・ふり返る学習活動や個に応じたの手立ての充実	

重点	経営ビジョン	具体的な取組 (重点目標)	項	評価の観点【成果指標】	基準	7月	12月	結果分析・改善	学校関係者評価	次年度に向けて
2	確かな学力の形成	自ら進んで学習する生徒の育成 「知」	⑨生徒	学んだことをふり返ったり次の授業を見通した勉強を家で行っている。	A-60% B-50% C-40%	38(88) C	37(88) C	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒は88%だったが、「よくあてはまる」と答えた生徒は38%であり、目標には到達しなかった。家庭学習ノートの取り組みはしているが、授業に直結する予習復習を家庭学習で行うということが十分に定着していないのではないかと考えられる。  【7月評価時点での成果と課題】 今後も、自主学習ノートの推進を進める一方で、具体的にどんな予習復習を行ったらいいか、家庭学習の方法を教えるなど個別の指導を行ってきたい。  ○目標・計画の再設定(Action) 家庭学習の取組は個人差が大きく、肯定的な回答は88%であるが、実際に取り組んでいると考えられる「よくあてはまる」と回答している生徒は30%台と低調である。数値目標は変更せず、毎時間ごとに小テストを行う等、生徒の家庭学習に対する意欲を促していく。	(前期) 家庭学習については授業で学んだことをただやっているだけでやらされ感が強いことが考えられる。家庭学習の大切さを知り、自分から「やるぞ」という気持ちを持たせることが必要である。親としては褒めてやるのが大事だと思う。  (後期) 肯定的な回答は88%と高いが、「よくあてはまる」だけ見るとやや低い。もっと多くの生徒達が自信をもって「よくあてはまる」と回答できるように、自主学習ノートの充実を目指してノートの書き方を指導したり、できていない生徒には声をかけていくと良いと思う。	【評価を終えて】 家庭学習については、7月と比較するとほぼ横ばいの数値となった。アンケート項目の「学んだことをふり返ったり、次の授業を見通した」勉強を自分で行うことが、様々な課題解決に必要な力であり、学びに向かう人間力につながるものと考えられる。 今後も「カリガリノート」(自主学習ノート)の終了冊数に応じて段位認定し、励まし誉める機会を持っていく。また、学習内容の充実のために、学級担任だけでなく教科担任からも家庭学習の充実につながるような学習方法を示していく。  【求める生徒の姿】 ・復習や次の日の予習に取り組める生徒  【具体的な取組】 ・一人一人の学習到達状況を確認し、さらに意欲を引き出すための新たな取組
			⑩保護者	子どもは、家庭学習をしている。	A-85% B-75% C-65%	83% B	85% A			
			11教師	家庭学習の習慣化のための取組をしている。	A-90% B-80% C-70%	100% A	100% A			
3	豊かな心の育成	心と体を鍛える生徒の育成 「徳」	⑬生徒	友達の良い行いや長所を見つげることができる。	A-65% B-50% C-35%	57(97) B	49(96) C	○7月評価(Check) 【評価・分析】 生徒、保護者、教師すべての観点で概ね高いポイントとなっており、家庭と学校双方から相乗的に働きかけがなされていると考えられる。「友達の良い行い」の項目に関しては、B判定であるが、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合は、他の質問に比べてとても高くなっている。  【7月評価時点での成果と課題】 生徒同士が良いところを見つげ発表し合う「とりごえもの羽」について、生徒の意識が高くなっていることが見て取れる。この活動を行うことにより、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるように進めていきたい。  ○目標・計画の再設定(Action) 「よくあてはまる」の数値は下がっているが、「あてはまる」と合わせると、数値は横ばいである。取組は浸透していると考えられる。来年度の取組は質の深まり・向上を重点的に進めていきたい。具体的なアイデアとしては、現在期間限定で行っている、テーマを絞ったとりごえもの羽を月に一回のペースで行う、等である。テーマを絞ることで、生徒に「思いやり」「積極性」などについて深く考える機会となればよい。テーマも、生活目標などと関連させることも考えられる。また、とりごえもの羽以外に、各学級での取組も行うことでさらに効果的になると考えられる。	(前期) お互いの長所や短所を認め合うと思いやりが生まれる。認められ、褒められるとやる気につながるのではないかと。  (後期) 教室になかなか入れないときにそっと声をかけたり手紙をくれたりする生徒がいるという話を聞いた。温かい気持ちになった。「とりごえもの羽」の取組に加え、学級でお互いの良い所を書く機会があるとすべての生徒が認めてもらえるので良いと思う。	【評価を終えて】 生徒同士が良いところを見つけて名前やその行為を書く「とりごえもの羽」が定着してきており、他の人の良い行いを見つげようとする生徒の意識が高くなっていることがうかがえる。しかしながらすべての生徒が名前を書かれているわけではない。 今後は定期的にテーマを変えて生徒の積極的な行動を促し、各学級でも一人一人の良いところを書き合うなど、自尊感情を育むとともに他者への思いやりが自然と生まれるような場面を設けていく取組をしていきたい。  【求める生徒の姿】 ・互いのよい行いや長所を見つげることができる生徒  【具体的な取組】 ・毎日の生活を通して教師による働きかけの推進 ・他者に対する思いやりの心を育てるための道徳授業の取組
			⑭保護者	子どもは、友達の良い行いや長所を見つげることができる。	A-90% B-80% C-70%	92% A	90% A			
			118教師	互いの良いところを見つげ、伝え合うための指導を行っている。	A-90% B-80% C-70%	100% A	100% A			
			⑭生徒	友達に対して、思いやりの心で行動している。	A-95% B-85% C-75%	94% B	89% B			
			⑮保護者	子どもは、友達に対して、思いやりの心で行動している。	A-90% B-80% C-70%	93% A	90% A			
			119教師	道徳の授業を要とした道徳教育の工夫で、生徒に思いやりの心が育ってきている。	A-95% B-85% C-75%	88% B	88% B			
4	健全な体の育成	心と体を鍛える生徒の育成 「体」	⑯生徒	自律清掃(無言、見つけ)を通して、自分の心を磨いていると感じる。	A-60% B-45% C-30%	46(92) B	49(95) B	○7月評価(Check) 【評価・分析】 全校生徒の92%が「よくあてはまる」「あてはまる」と回答しており、自律清掃により心が磨かれていると感じていることがわかる。特に「よくあてはまる」と答えた生徒の割合は4月の実態把握調査よりも16%伸びた。平素の教育活動の成果があると思われる。  【7月評価時点での成果と課題】 「よくあてはまる」と答えた生徒の割合はまだ50%に達していない。「あてはまらない」「まったくあてはまらない」という回答が昨年度に比べ減少したものの、7%の生徒が「あてはまらない」と答えている。  ○目標・計画の再設定(Action) 数値は横ばいであった。来年度はさらに質を重視した取組を行ってきたい。本年度中は生徒会でゴミ拾い等、気付きに関する取組を行い、清掃の質をさらに高めていきたい。	(前期) 使用した場所を自分達できれいにすることは大事である。  (後期) 積極的に見つけ清掃ができるよう、今後も取組を続けていってほしい。	【評価を終えて】 「よくあてはまる」生徒は7月の46%から49%とわずかであるが増加している。「あてはまる」と合わせると95%と、自律清掃の取組に対する意識の高さがうかがえる。生徒会でゴミ拾い等の取組を行い、気付きを促し掃除の質を高めることにつなげていきたい。  【求める生徒の姿】 ・大きな声、丁寧な所作によるあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒  【具体的な取組】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元
			24教師	自律清掃(無言、見つけ)を通して心を磨く指導をしている。	A-90% B-80% C-70%	100% A	100% A			
5	開かれた学校	ふるさとに誇りを持つ生徒の育成 「家庭・地域連携」	⑳生徒	地域に愛着や誇りを持っている。	A-70% B-60% C-50%	65(97) B	62(93) B	○7月評価(Check) 【評価・分析】 生徒、教職員の回答はとても高い評価である。これは、城山旧道整備、花いっぱい運動等、生徒が主体的に活動したこと、教職員も生徒と共に地域への貢献活動をしたことによる。生徒の掲示には愛郷心あふれるものが多く見られた。保護者評価においては、93%と、昨年度の83%を大きく上回り高い数値である。  【7月評価時点での成果と課題】 地域とのつながりが強い学校である。また、家庭からの期待も高いことがわかる。生徒の愛郷心をさらに高められるように、今後も継続して地域の活動に参加したり、行事や授業等での地域人材の活用を進めたりして地域や家庭に対して、生徒の良さを積極的に発信していくことが必要である。	(前期) 地域やまわりの大人達が地域に愛情を持っていて、その空気を子ども達も感じてこのような高い数値につながっている。 学校にこれほど協力的な地域はなかなかないと思う。小学校にしかできない地域の学習があると感じた。小中が連携してそれぞれが地域の学習をしていく必要がある。 地域の農業方式や治水の歴史なども是非学ぶ機会を持ってほしい。  (後期) 地域の資源を活用した学校の取組が功を奏している。今後も地域との連携を大切にしながら子ども達の「ふるさとを誇りに思う」気持ちを育んでいってほしい。	【評価を終えて】 地元の方と直接交流する機会を持ったことが、ふるさとへの愛着や誇りを実感することに結びついていると思われる。また、学校の取組を校内掲示や学校だよりで紹介してきたことが保護者の高評価(90%)結果につながっていると考えられる。 今後は地域人材・資源を活用する活動を授業や学校の行事に積極的に取り入れ、生徒自身が活動をふり返る機会を持つことで、鳥越中学校らしさの一つである愛郷心をさらに育んでいきたい。  【求める生徒の姿】 ・地域に誇りを持つ生徒  【具体的な取組】 ・地域教材を発掘し、地域の方々との連携によるふるさと教育の推進 ・積極的な地域行事への参加
			㉑保護者	子どもは、地域に愛着や誇りを持っている。	A-80% B-70% C-60%	93% A	90% A			
			28教師	地域に愛着や誇りを持つよう取り組んだ。	A-90% B-80% C-70%	100% A	100% A			